

助産学科 3つのポリシー

ディプロマ・ポリシー（卒業の認定に関する方針）

本学科は修業年限在籍し、所定の単位を修得するとともに、以下の能力や資質を身につけた学生に修了を認定します。

1. 生命の誕生に関わる専門職として、生命・人権の尊重について考え、倫理観に基づき行動する資質を有する。
2. 次世代の健全育成を目指し、対象となる人々の健康生活の向上のために助産実践を行う能力を有する。
3. 対象と良好な関係を築き、持てる力を引き出すことで対象の成長・発達を促すエンパワメントの能力を有する。
4. 保健医療福祉チームの一員であることを理解し、多職種と連携・協働する能力を有する。
5. 専門職としての自覚を持ち、自己研鑽する姿勢を有する。

カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成に関する方針）

本学科は、「基礎助産学」、「助産診断・技術学」、「地域母子保健」、「助産管理」、「助産実習」の科目群をディプロマ・ポリシーに掲げる知識・技能などを修得させるために、体系的に編成し、運営します。

助産師が対象とする女性および家族は、適切な支援を受けることで自分の力で問題を解決する能力を備えていることを重視し、対象に寄り添い、対象の持てる力を信じて困難な時期を乗り越えられるようエンパワメントすることが助産活動の中核となると考え、「基礎助産学」に「エンパワメント論」を設定しています。さらに他科目にもエンパワメントの考え方がいきわたるようカリキュラムを編成しています。

評価に関しては、それぞれの教育内容・方法（講義・実習等）に応じた評価方法が選択され、各科目のシラバスに明記されます。

1. 基礎助産学

基礎助産学は、助産師としての女性の生涯の心身の健康を支える上で基礎となる授業科目で

構成しています。

「助産学概論」「エンパワメント論」「生命倫理」「家族社会学」「女性の心理学」
「女性の健康科学」

「助産学概論」

…すべての助産学を学ぶ土台となり、助産師の専門性や求められる姿勢態度についても学習します。

「エンパワメント論」

…本学科の中核に位置する科目であり、演習を通して自己理解・他者理解を深め、コミュニケーションスキルを用いて対象を力づけるための視点や技術について学びます。また、母子の生命を尊重することに責任をもつ専門職として生命倫理についても深める内容としました。

2. 助産診断・技術学

助産診断・技術学では、妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期・乳幼児期にある対象に必須となるケアを学びます。また、すべての授業科目にエンパワメントの要素を含め、様々な状況にある対象者の力を見極め、引き出し、乗り越えるために助産師としての関わり方を学びます。各科目の前半は健康水準を診断するためのアセスメント過程に重点を置き、正常を判断する視点と安全で円滑な経過を支援する能力を養います。異常・ハイリスクについては正常に積み上げる形で後半に配置しています。

助産ケアの中核となる分娩介助技術の修得においては、原理原則を学んだ後に段階的に学内での演習を行い、確実な手技の修得を確認した上で臨時実習へと結びつけます。

「助産診断・技術学Ⅰ～Ⅵ」「健康教育の技術」

「助産診断・技術学Ⅳ 母乳育児支援」

…科学的根拠とコミュニケーションスキルを基盤に母乳育児を行う母親を支えるための姿勢や技術について集中的に学ぶセミナーを実施します。

「健康教育の技術」

…助産師として求められる保健指導・健康教育について理論を学ぶと同時に、健康教育のクラスの企画運営を実践を通して学びます。

3. 地域母子保健

地域母子保健では、母子を中心とする家族から地域・社会へ視野を広げ、地域における助産師の役割や様々な職種との連携を学びます。

4. 助産管理

助産管理では、管理的な視点で助産所、病院等における助産業務を理解できるようにします。

5. 助産研究（文献講読）

助産研究では、助産師としての業務の質を高めるために助産研究の意義と文献活用の方法について学習します。

6. 助産診断・技術学実習

助産診断・技術学実習は、前半を基本技術習得期間としています。中盤に学内での講義期間を設け、個々の課題を明らかにした上で後半の実習に臨みます。

後半の実習では段階的に主体性を身につけ、学生自身が判断し、より個別的な状況に応じた助産実践が行えることを目指します。

また、継続事例として実習初期に妊婦を受け持ち、分娩を経て産後1ヶ月まで関わり、継続して行われる助産活動の意義と方法を学びます。

「地域母子保健実習」

…地域母子保健実習では、地域で暮らす母子について学び、家庭訪問の実施などを行います。対象が生活する場や社会資源の活用を実際に知ることで、視野を広げることを目指します。また産後のメンタルケアについても学べる実習内容としました。

「助産管理実習」

…助産管理実習は、助産業務の管理や助産所の運営、周産期医療システムなど助産活動を多角的な視点から学べるよう、先進的な医療を提供する産科病棟・NICU（新生児特定集中治療室）・助産所などでの実習を行います。

アドミッション・ポリシー（求める人物像）

本学科では、以下の能力や資質を保有している人を受け入れます。

1. 助産師として、保健医療福祉に貢献する意思を明確に持っている人。
2. 助産師を目指す高い志を有し、自立した学びができる人。
3. 看護学における基本的知識を有し、自ら考え判断し、他者と協働した実践ができる人。
4. 人としての成長を目指しつつ、他者を尊重し、信頼関係を築くための努力ができる人。